

トリサシダニに対するSCV - 03R製剤ならびにペルメトリン製剤およびフェニトロチオン製剤の*in vitro*での殺虫効力と*in vivo*での駆除効果の比較評価

村野多可子

Comparative evaluation of SCV-03R and permethrin 4%EC, fenitrothion 10%EC by *in vitro* acaricidal activity and *in vivo* exterminative efficacy against Northern Fowl Mites (*Ornithonyssus sylviarum*)

Takako Murano

要 旨

既存畜産用殺虫剤のトリサシダニに対する新規応用を目的として、2種類のピレスロイド系化合物を含有するSCV - 03R製剤を用いた*in vitro*および*in vivo*試験を同効能に関する既存承認薬剤と比較試験を実施した。*in vitro*試験ではSCV - 03R製剤ならびにペルメトリン製剤およびフェニトロチオン製剤の200、800、3、200、12、800、51、200、206、000倍の6段階希釈液をバスツールピペット内壁面に浸潤させた後に乾燥させ、ダニを封入することにより殺虫効果を検討した。この結果、SCV - 03R製剤は12、800倍以下の希釈倍率であれば、薬剤接触24時間後に全てのダ

ニの死亡が確認された。しかし、ペルメトリン製剤およびフェニトロチオン製剤は3、200倍以下の希釈倍率でないと、薬剤接触24時間後に全てのダニの死亡は確認されなかった。また、*in vivo*試験ではSCV - 03R製剤を200、400、800倍、ペルメトリン製剤を400、800倍、フェニトロチオン製剤を50、100倍に水で希釈し、ダニが寄生した鶏の総排泄腔部を中心に噴霧した。肉眼で効果を判定した結果、SCV - 03R製剤は各希釈液処理群とも噴霧1日後から調査終了の49日後までダニは観察されなかった。しかし、ペルメトリン製剤の800倍は噴霧1日後に、またフェニトロチオン製剤の200倍は調査期間を通してダニが観察された。

(獣医畜産新報、第58巻、639-643、2005)